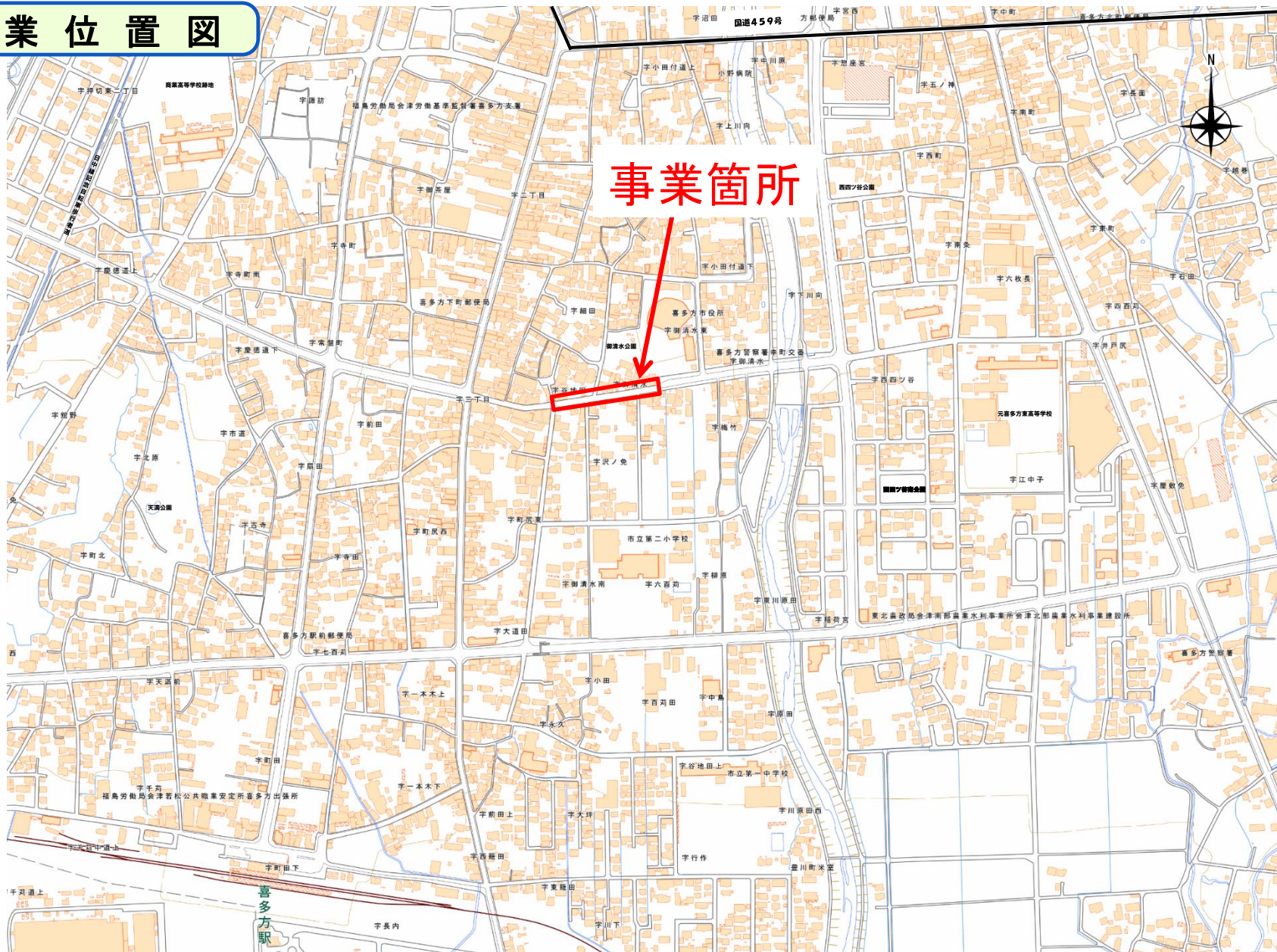


事業概要

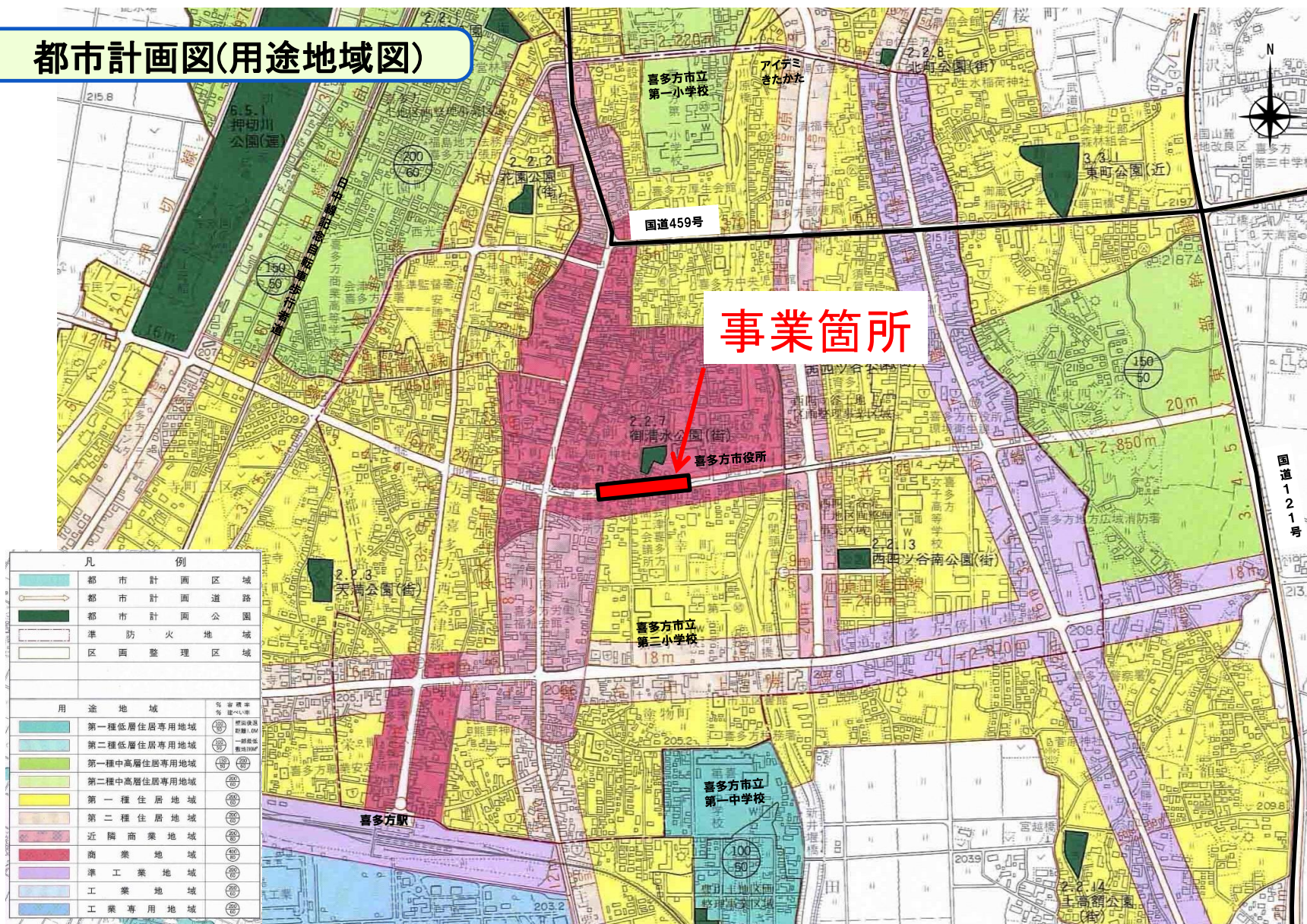
(喜多方市：(都) 坂井四ツ谷線)

応募No.	4		
事業主体	喜多方市	事業箇所	福島県喜多方市字御清水地内
応募者名	喜多方市建設部都市整備課		
ふりがな 事業名称	としけいかくどうろさかいよつやせんがいろせいびじぎょう(おしみずひがしこうく) 都市計画道路坂井四ツ谷線街路整備事業(御清水東工区)		
事業概要 (400字以内)	本業務は、本市役所前に位置し、中心市街地内を東西に連絡する都市計画道路において、歩道新設及び車道拡幅を目的として、平成25年度に事業認可を取得し、同年度から道路拡幅整備を実施したものである。本路線は、市役所前のシンボルロードであり、多くの市民や観光客が回遊する路線であるが、歩道が無く、冬期間には積雪で車両の通行にも支障を来す状況であった。そのため、歩道新設・車道拡幅に併せて車道散水・歩道無散水の消雪施設を整備した。また、福島県指定の緊急輸送道路(第2次確保路線)に指定されており防災上重要な路線であるが、地震等で電柱が倒壊し路線が寸断される恐れがあることから、無電柱化(電線共同溝方式)を実施することにより、安全性・快適性に加え防災性の向上を図ったものである。		
事業規模	事業延長(km)	約0.2km	
	幅員(m)	約20.0m	
	事業期間(和暦)	平成25年度～令和5年度	
	事業費(億円)	約11億円	
受賞歴	有・ 無		
URL	—		

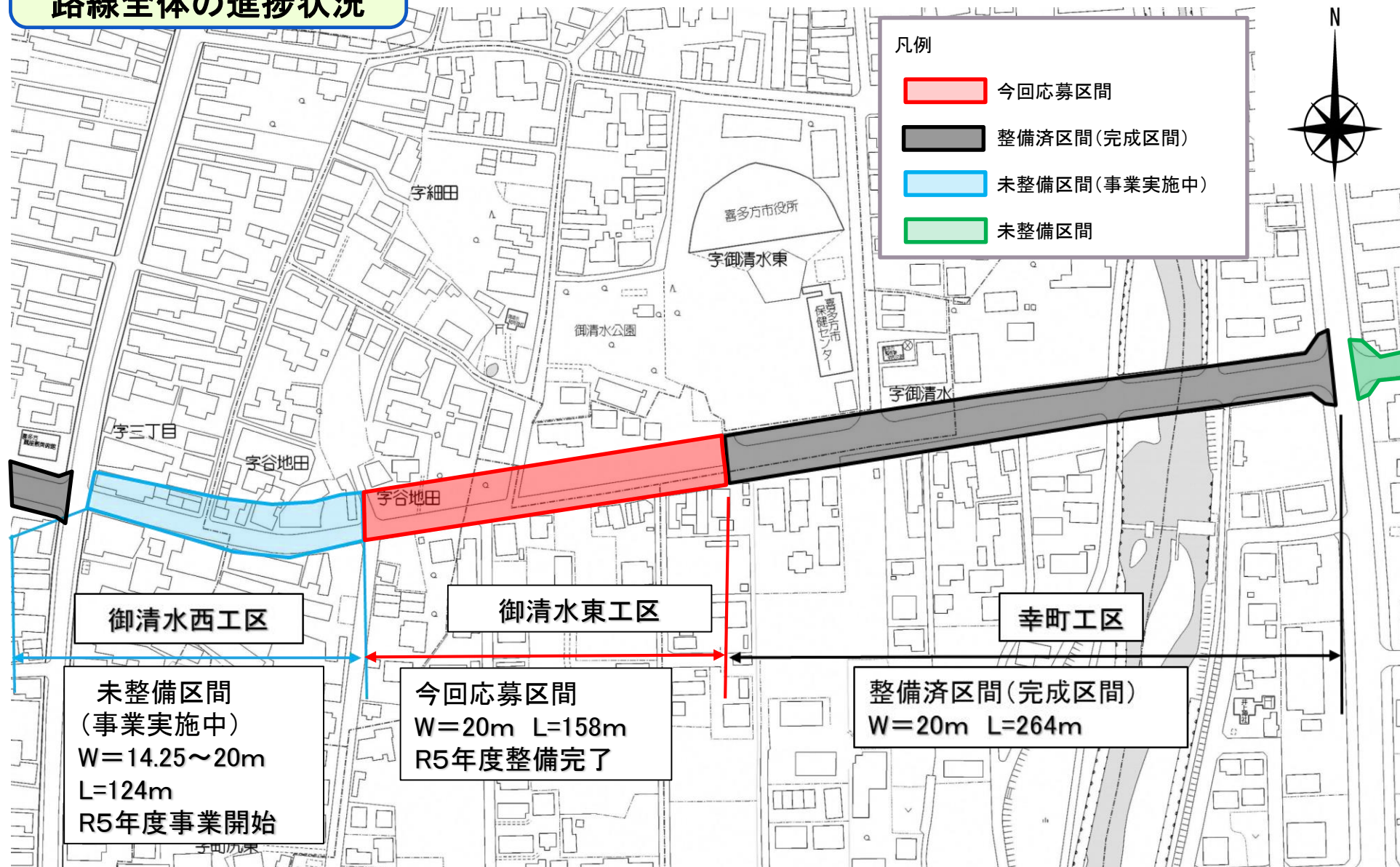
事業位置図

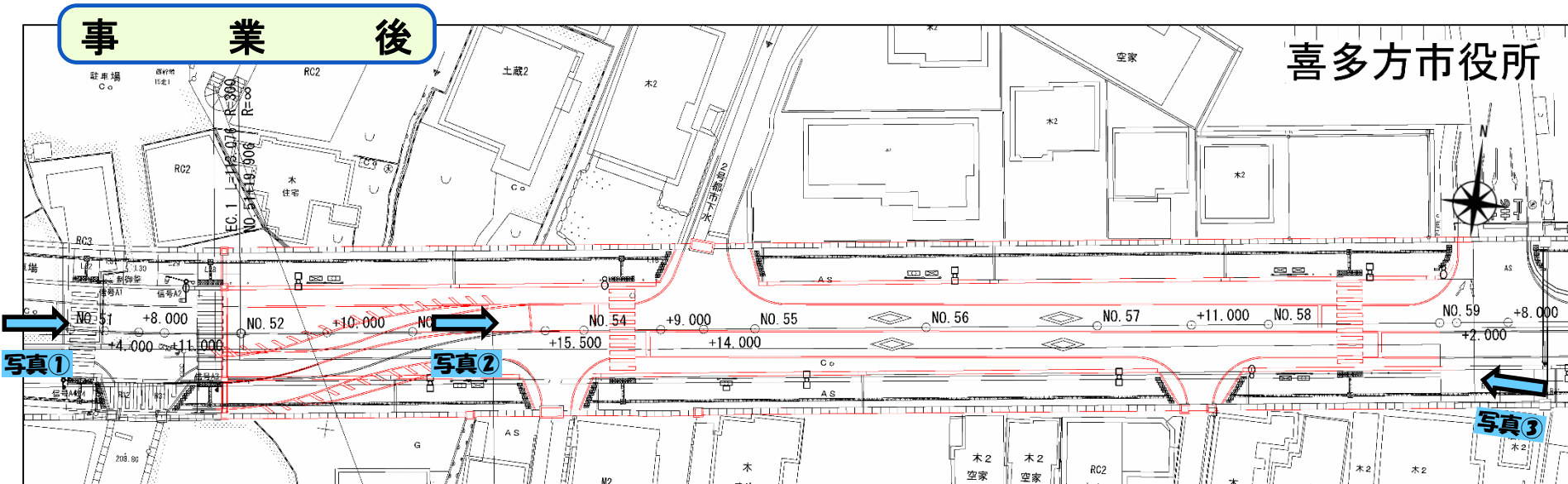


都市計画図(用途地域図)



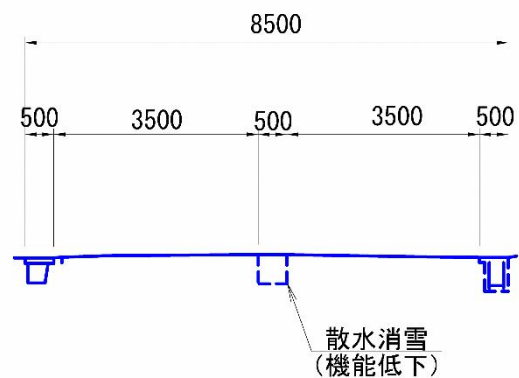
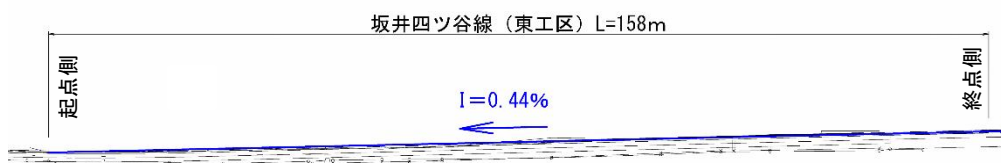
路線全体の進捗状況



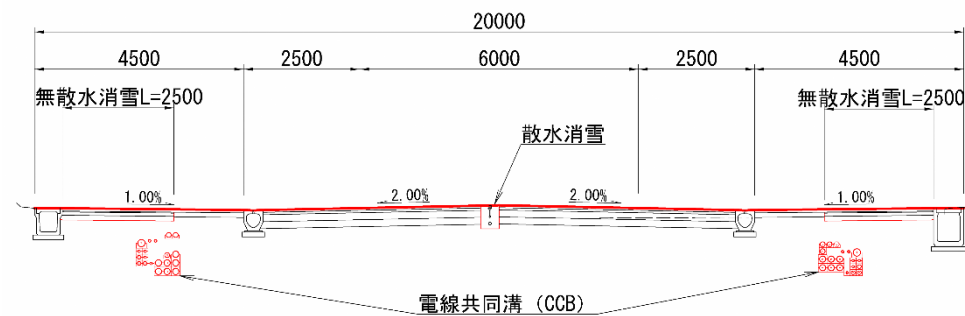


縦断図・横断図

事業前



事業後



事業前写真

写真①



写真②



写真③



事業後写真

(喜多方市：(都) 坂井四ツ谷線)

写真①



写真②



写真③



事業効果アピール資料

①歩行者の安全性・快適性向上

事業前



事業後



事業前は歩道が無く、歩行者が安全に通行できなかったが、事業後は幅4.5mの歩道を確保することで、安全性や快適性が向上した。

②防災性の向上

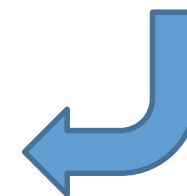
福島県指定の緊急輸送道路(第2次確保路線)に指定されているため、無電柱化を行うことにより、地震等での電柱倒壊による道路寸断の回避や二次災害の防止を図ることで、防災性が向上した。



事業前



事業後

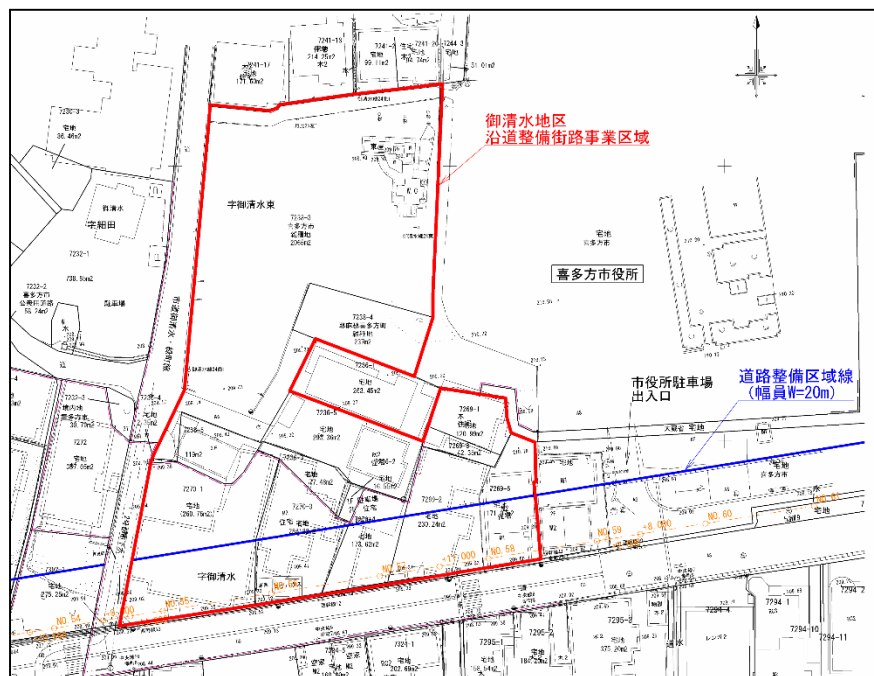


事業効果アピール資料

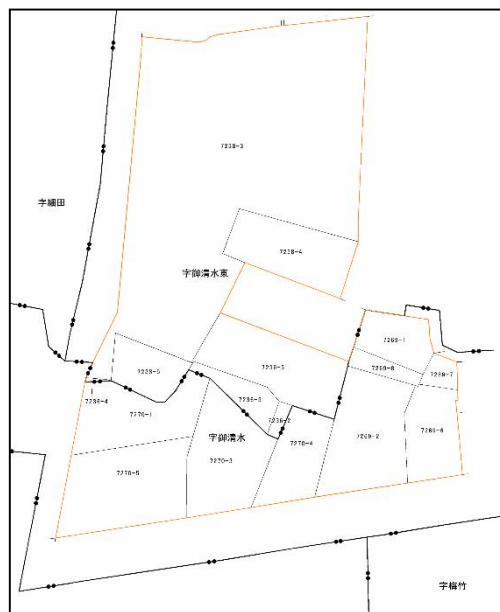
③賑わい確保・居住環境の向上

現地への残留を希望する沿道地権者が多いことを受け 沿道整備街路事業(換地手法)を活用し、様々なニーズ(買収、残留、集約等)に対応したことで、地区外への移転や不整形な残地の発生を抑制した。これにより、まちなかの賑わい確保や居住環境の向上を図った。

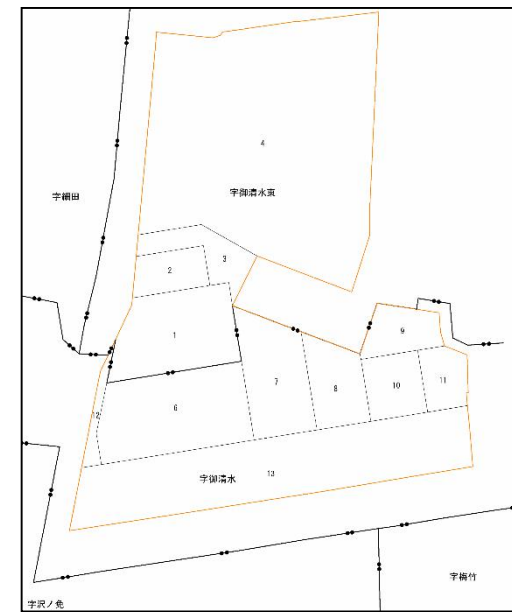
区画整理区域



事業前



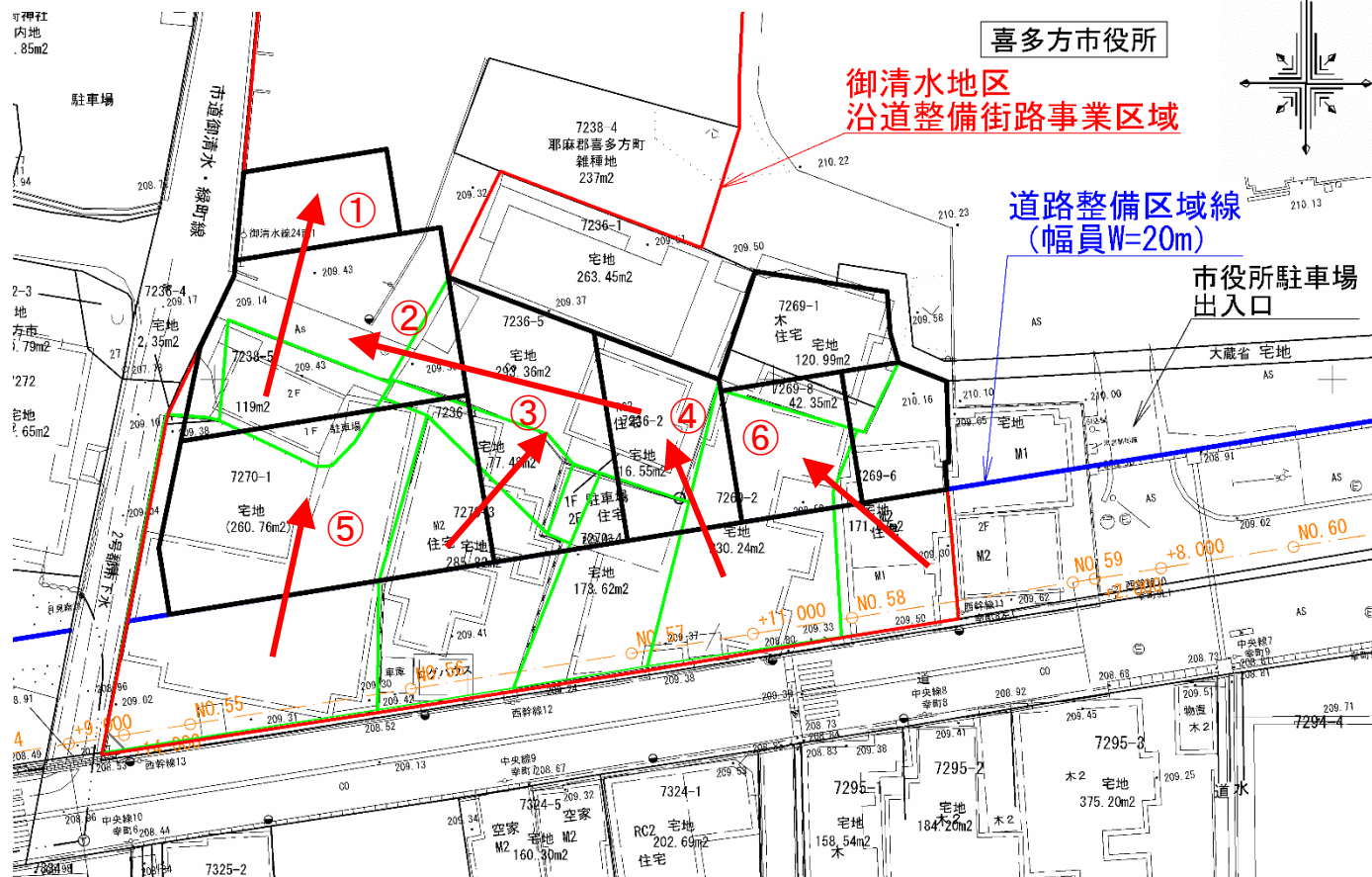
事業後



苦勞や工夫等アピール資料

①地権者との調整

残留希望者が多かったため、右図の①～⑥の順番で換地による玉突き移転を行う必要があった。実施に伴い、地権者との交渉・調整に多くの期間と労力を要したため、完了までに長い期間がかかった。

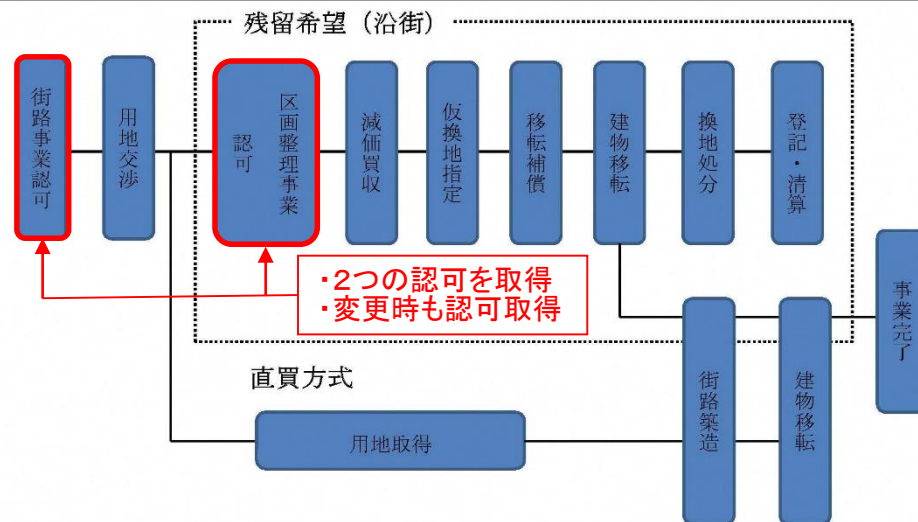


凡 例  :建物移転  :沿街区画  :現況公図

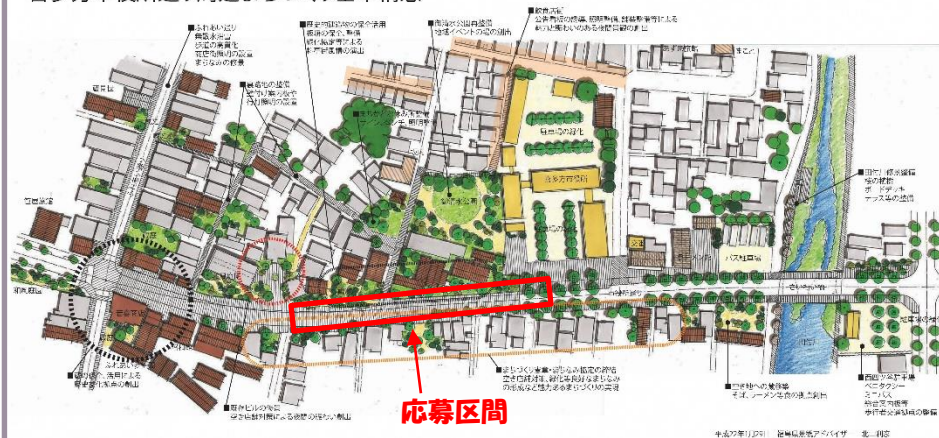
苦労や工夫等アピール資料

②地権者との合意形成

街路事業認可とは別に区画整理事業認可が必要であり、変更を要する場合には都度、変更認可を取得する必要があった。沿道整備街路事業は施行地域内の全地権者の同意が必要となるため、日頃から良好な関係を築き、正確な情報共有を行いながら、合意形成を図る必要があった。



喜多方市役所通り周辺まちづくり基本構想



③住民団体との調整

官民で組織した「まちづくりモデルプラン策定委員会」が定めた「まちづくりモデルプラン」に沿って事業を進めるため、委員会の実施主体である市役所通りを良くする会(住民団体)と整備内容に関する調整を適宜行いながら、事業を進めた。